



■2013年9月のマンスリーNEWS 第110号

■コラム

■9月のアークル



皆様いかがお過ごしでしょうか。朝晩だいぶ過ごしやすくなってきて、少し秋を感じる今日この頃です。

最近、テレビドラマの「半沢直樹」が大ヒットしています。実はこの原作の池井戸潤氏の作品は結構好きで数冊読んでいました。しかし、「半沢直樹」の原作である「オレたちバブル入行組」と「オレたち花のバブル組」は読んでいませんでした。テレビを見て「こりゃ面白い」、次週のテレビ放映まで待つてられないと思い原作本を先行して読んじやいました。原作本もちろん面白く、最新作の「ロスジェネの逆襲」まで一気に読みました。

この内容はキャラクターの悪役・善人役をはっきりさせ、水戸黄門のように最後、正義が勝つという基本構成にやや大袈裟な演出を加えたのが受けたのかもしれませんが。NHKで同時期に同じ著者のドラマ「7つの会議」もやっていました。とても面白い作品ですがドラマの演出力の差が出たのかななんて思いながら、池井戸ワールドを楽しませてもらいました。

さて当社では夏場最盛期も残すところわずかとなりました。7・8月はなんとか昨年をクリア、しかし昨年9月は過去最高売上を上げている月なので、昨年売上をクリアするにはかなり厳しい状況です。

8月を振り返ってみると、今まで当社の売上を牽引してくれていた海老名（営）が大失速してしまい、その分小田原（営）が頑張ったという結果でした。海老名（営）の大失速の原因がわかっています。適正在庫を意識するあまり、売り切れが多く売上チャンスロスが多く発生してしまったのです。なぜ適正在庫を意識しなければならないのか？それは賞味期限問題なのです。私達飲料オペレーターは、食品を扱う業者として、絶対に賞味期限切れを出してはならないという大原則があります。賞味期限切れを出す大きな原因の一つに過剰在庫の問題があります。例えば、月に1本しか売れない商品のコラムに商品を満タン投入してしまうと、そのコラムに何も手を加えなければ、その商品はずっと眠ってしまうことになります。

適正在庫と過剰在庫の答えはありません。なぜなら売れ行きは常に変動するからです。売れ行きは天候などの外的要因や商品特性などの内的要因がある上に、自販機の設置先のお客様の嗜好もあります。つまり適正在庫の数字を確定させることは不可能なのです。

しかし賞味期限の問題がある限り、このテーマから逃れることはできません。

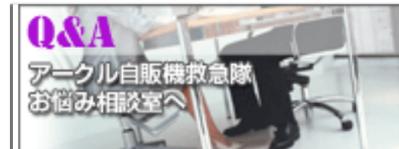
皆さんは自販機の売り切れランプが点灯していたらどのような印象を受けるでしょうか？「良く売れてるなこの自販機」とか「営業マンが全然詰めに来てないじゃない！」とかいろいろな印象を受けるでしょう。実は売り切れにはわざと狙って出す売り切れと、出すつもりではないのに出てしまった売り切れの2つがあります。前者は終売などの場合で売り切った他の商品と変える場合などで、後者は十分な補充がなされていなくて起こってしまった売り切れなどです。



私達の中では「良い売り切れ」と「悪い売り切れ」と呼んでいますが、お客様にとっては売り切れは売り切れで状況などは関係ないのは重々わかっています。常に売り切れのない状態がベストですが、これを維持するのもなかなか難しいのです。このように賞味期限管理と売り切れは矛盾する関係にあります。これを良い塩梅にしていくのが私達の手腕になっていくのです。またそのテーマに加えて、楽しいバラエティーに富んだ自販機を作るというテーマもあるのです。どちらもこの春からチャレンジなので、まだまだですが自販機管理のやるべき方向性が見えてきたと嬉しいのではないかと感じています。

さて先月は毎年恒例のルートマンキャンペーンの表彰式と納涼会を兼ねてのボーリング大会が行われました。今年で4回目となります。

今年の自販機キャンペーンの内容は自販機のPOP類の貼付がしっかりなされているかという点が重点ポイントでした。また商品の導入アイテムもチェック項目に含まれていることは言うまでもありません。実施方法は従来通り、全ての自販機の写真撮りをしてその自販機から各ルートマン別に50台を評価対象として抜粋し、得点方式の評価で競うというやり方になります。また今回は評価内容を一部、新入社員とベテラン社員と分けて評価しました。ということで、上位表彰者はベテランと新人に分けるという形になったのです。



場所は本厚木のレンブラントホテル。ボーリング大会が7時過ぎに終了しホテルの会場に移動します。ボーリング大会の結果発表、キャンペーンの表彰と移っていきます。このキャンペーンの表彰式は毎年1月と8月に行われており、アークルの恒例行事となりつつあります。秋冬・春夏のキャンペーンをそれぞれ表彰する形になりますが、このようなキャンペーンを行う ことによって自販機は良い状態に保たれているかどうかのチェックできることになっているのです。



←両営業所の新人さん達抱負を語る

さて結果発表です。。ちなみに1位は前々回は海老名、前回は小田原が獲っています。

結果は以下のようになりました。小田原のY君は連覇ということになりました。

**ベテラン** 1位 Y君(小田原) 2位 I君(海老名) 3位 K君(海老名) 4位 I君(小田原) 5位 M君(海老名)

**新人** 1位 A君(海老名) 2位 T君(海老名) 3位 T君(小田原)

今回、いつも違っていたのは4位のI君です。J T担当が初めて5位以内に入賞しました。ちなみに今年のJ Tの夏の商品 ラインナップはかなり良く、パーマシシ(1台あたりの売上)がダイドー・サントリーに肉薄しました。

このような自販機キャンペーンは今後も続けていく予定です。

さて、今月号は少し飲料業界の動きについて書いておきたいと思います。実は飲料業界は今年大きな転機を迎えているのです。皆さんもご存知のようにサントリーが7月に上場を果たし、コカコーラ関東4ボトラーが経営統合したのです。コカコーラについては現時点では持ち株会社で4ボトラーはその100%子会社として存続しており完全統合とはなっていませんが、来年の1月までには完全統合という流れになっているようです。

どちらにしても、両者とも収益アップが至上命題となるのは間違いなさそうです。もし収益アップを最優先にした場合、現在の泥沼化した過当競争から脱却するかもしれないという淡い期待が湧いてきます。

しかし、ここ数ヶ月のコカコーラの動きを見ているとどうやらその反対に動いているとしか考えようがない気がするのです。本気でコカコーラを抜こうとしているサントリーに過剰反応しているのかもしれませんが、コカコーラ(王者)らしからぬ、営業が非常に目立ちます。

一方サントリーは、今回の上場の資金を海外のM&Aに使うと言っています。しかしよく考えてみれば、その資金が国内に使われる可能性は十分に考えられます。なぜならコカコーラのシェアを抜くにはM&Aしか残されていないからです。

飲料業界の大きな問題は消費税導入を前に価格是正が出来るかです。現段階ではどの飲料メーカーも価格是正をするとは言っていません。この価格是正とシェア争いは相反する問題で、各社それぞれ思惑が違うはずで、3位以下のアサヒ・キリン・伊藤園はシェア拡大を虎視眈々と狙っているでしょうし、トップ2社だけで、出来る問題でもなさそうです。

今回コカコーライースト(関東4ボトラー統合)の経営はアトランタが直接ということになり社長は外国人。そう言えばマクドナルドも先日原田社長が退任してマレーシア人の社長が就任するようで、こちらも外国人。どちらも元々はアメリカの代表的企業ですが、何か違和感を感じます。

日本の飽和市場で成長が厳しくなってきた昨今、「日本市場は日本人が経営するのがいい」というような悠長なことも言っていられなくなってきたのかもしれない。

## ■コラム

### ■先月の売れ筋商品

DYDO売れ筋ベスト5		SUNTORY売れ筋ベスト5		J T売れ筋ベスト5	
1位	新ダイドーブレンドコーヒー	1位	南アルプス天然水500P	1位	マルチミネラルウォーター500P
2位	スピードアスリート500P	2位	グリーンダカラ500P	2位	爽快ビタミン500缶
3位	新ブレンド微糖	3位	ボスレインボーマウンテン	3位	ルーツインパクト微糖
4位	Nデミタスコーヒー	4位	ボス贅沢微糖	4位	桃の天然水ライト500P
5位	富士山天然水500P	5位	ボス地中海ブレンド	5位	レモン水500P

## ■コラム

### ■ゴルフ聖地巡礼の旅

#### 憧れのセントアンドリュースへ

伊集院静の「Regend of Golf」という番組をご存知でしょうか？世界の名門ゴルフコースを巡る番組で、スコットランド、ハワイ、西海岸、フロリダ、スペイン、フランスなど毎年2回くらい放映しています。その中の第1回の最初の訪



問地はスコットランドセントアンドリュースコースでした。たしか2009年の夏の放映だったと思います。

この番組を見て以来、ただぼんやりと憧れだけだったセントアンドリュースが「いつか訪問を実現したい」という強い思いに変わったのです。

ゴルファーなら全ての人が一度訪れたいと思っている場所、それがセントアンドリュースです。

実は私のゴルフ仲間に75歳の方がおられます。その方は過去2回セントアンドリュースを訪れたことがあるそうです。

昨年その方とゴルフをしたときに、セントアンドリュースの話になりました。「私も是非一度行ってみたい。一緒に行きませんか？」そんな話しをしたのを覚えています。

すると昨年末、その方から「〇〇君、セントアンドリュース行くかい？」とお誘いがあったのです。断る理由はありません。「是非一緒にさせてください！」なんとセントアンドリュース行きが実現したのです。

セントアンドリュースとはスコットランドの町の名前です。ここにはたくさんのリンクスコース（海岸べりの草原コース）がたくさんあります。その中の一つがオールドコースなのです。またこのオールドコースは周りを5つのコースで囲まれるように存在しています。

ちなみにオールドコースは600年の歴史を持ち、「ゴルフの聖地」と呼ばれ、いまだに世界中のゴルファーを魅了し続けています。

セントアンドリュースはなぜ「ゴルフの聖地」と呼ばれるのでしょうか？

「スコットランドはゴルフ発祥の地である」「オールドコースは世界最古のゴルフコースである」実はこれらは定かではないようです。起源については、スコットランドの羊飼いの遊び説が起源と言う以外に、オランダ説、エジプト説、中国説などがあるようですが、ゴルフクラブについてはエジンバラ郊外のリースリンクスで誕生した組織が記録に残る最古のものとされているようですが、いまだに歴史家や愛好家達の議論になっているようです。

セントアンドリュースが「聖地」と呼ばれる理由。それはゴルフを競技として確立させたこと、同時にゴルフの振興に最大限に貢献したことに対する称賛からなのです。例えば18ホールを1ラウンドにしたのも、ストロークプレーを定着させたのもセントアンドリュースが最初です。また地主たちのスポーツであったゴルフを庶民にも解放し、避暑の旅行者などにも積極的にゴルフを奨励するなど、常にゴルフ文化の振興に積極的だったこと。これらはすべて1745年に創立されたロイヤル&エイシェントクラブ（R&A）によるもので、R&Aがゴルフの総本山と呼ばれる所以なのです。そのR&Aはこのオールコースの脇に建っています。



さてセントアンドリュースオールドコースでプレーするにはどうしたらいいのでしょうか？なんせ世界中のゴルファーの憧れのコースでこの時期は世界中から多くのゴルファーが来ています。

オールドコースでプレーする方法は以下の4つがあります。

- ・セントアンドリュース・リンクス&トラスト（オールドコースを含むセントアンドリュースの6つコースの予約管理をしている）に直接申し込む
- ・前日のバロットと呼ばれる抽選に参加する
- ・早朝からスターター小屋に並ぶ。
- ・オールドコースのプレーを保証された現地ツアーに参加する。

まずリンクス&トラストに直接申し込む場合は予約は1年前くらいから埋まっているので予約を取るのはとても困難な状況です。またバロットやスターター小屋に並ぶのは確実なプレーはもちろん保証されませんし、グループでのラウンドが困難になってしまいます。となると一番最後の現地ツアーに参加するが一番現実的な方法となるのです。しかしこのツアーはオールドコースのプレーが保証されている代わりに、別のコースと組み合わせられ、更にホテルともセットされかなり高額になってしまいます。

私達がセントアンドリュースに到着したのは8/11の日曜日。ホテルの目の前がオールドコースの1番と18番ホールです。「あれっ？プレイしている人がいないぞ。なんか公園みたいに地元の人が犬を連れて歩いたり、観光客がぞろぞろ



フェアウェイを歩いている」

そうなんです。オールドコースは毎週日曜日はお休みで、一般市民に公園のように解放されているのです。これはこのコースの特殊性で、コースが市の管理下におかれていて市民のために存在するコースということらしいのです。日本やアメリカの有名コースでは考えられない光景です。チェックインまで時間のある私達は早速、強い風が吹き付ける中、オールドコースの散歩（？）をしたのです。

フェアウェイを歩いてみるとよくわかるのですが、とにかく地面が堅く芝生が薄い感じがします。これはボールがよく転がるだろうということが容易に想像がつきます。またラフが深く、木は存在しないのです。一見すごく広い草原に見えますが強い風とこのラフでゴルフは相当難しくなるのだろうと思われました。

さて今回のスコットランド訪問の日程は日曜日から木曜日まで。木曜日の夕方の便には帰国の便に乗らなければなりません。

この日程の中でどれくらいラウンドできるのだろうか？ ツアーに含まれるラウンドは4回、それ以外にどれくらい出来るか、チャレンジです。

まず初日。この日はラウンドの予定はありません。しかし目の前にスコットランドリンクスが広がるなか、何もしない手はありません。早速、リンク&トラストへ電話。「今日ラウンドしたいんだけど、空いてる時間はありますか？」「ジュビリーコース、16:14なら空いてますけど」「えっ？」スタートが遅すぎて日没でダメじゃんと思ったら、この時期のスコットランドの日没は22時ぐらいなのだそうで、16時過ぎでも余裕でラウンドできますよということでした。

ちなみにセント・アンドリュース・リンクスにはセント・アンドリュース7と称される、オールド、ニュー、ジュビリー、キャッスル、エデン、ストラスタイラム、バルゴブがあります。

初日にジュビリーコースをコースを回ることになったのですが、このコースは位置的にオールドコースの一番外側（海岸線側）で、海風の影響が一番受けやすい難易度の高いコースだそうです。開業は1897年で優に100年は経過しています。

ホテルからジュビリーコースのスターター小屋までは歩いて約10分。受付はとてもシンプルで、その小屋でお金を払えばOKです。ラウンドは担ぎか手引きカートのみとなります。日本のように乗用カートなどは一切ありません。あとは、キャディを頼むことも出来ます。キャディはチップも含め70ポンドぐらいですので、1万円以上かかります。

スコットランドリンクスの感想は・・・ 一見草原で木もなく広々としている様子なのですが、ゴルフ場としてはとても狭く、曲げたらスコアにならないというのが第一印象でした。まずラフに入るとボールが見つかりません。また風が強いので、クラブ選択が非常に難しい。地面はとても固いのでグリーン周りからのアプローチはパターがとても有効となります。ちなみに50ヤードを越える距離をパターで打ったのは今回が初体験でした。またかの有名なポットバンカーに入ると場所によっては2打も3打もペナルティーを払わなければなりません。

さて翌日はツアーに含まれるキングスバーンズというコースです。セントアンドリュースから南へ車で15分ほど下ったところにあります。このゴルフ場の開業は2000年、アメリカの有名な設計家のデザインだそうです。セントアンドリュースと同じ海岸線のリンクスコースもかわらず、とてもモダンな雰囲気をかもし出しています。

この2日目はあるテーマをもったのプレイをしました。前日このキングバーンズ終了後もう1プレーをしようとするこの周辺のゴルフを調べたところ、このキングスバーンズからさらに南へ行ったところにクレイルバルコミーリンクスというゴルフ場があって、ここはなんと世界で7番目に古いゴルフ場だということです。

開業13年のゴルフ場と開業227年を1日でいっぺんにプレーしその違いを実感してみようじゃないかというテーマだったのです。その感想はどうだったかと言うと、一言で言うとまるで違うゴルフ場です。かたや近代的なデザインで1ホールごとに見事に作り上げられている感じで、一方はデザインなど関係なく草原の中にティーとグリーンを作っただけという感じです。バルコミーは共有グリーンも多く、どこかそのホールのグリーンなのかわからないほどです。

またこのバルコミーリンクスではスコットランド特有の天気の変化を受けました。午前中のキングスバーンズでのラウンドは風はやや強いものの良い天気で快適にプレーをすることが出来ました。しかし夕方からのバルコミーリンクスでは数時間の間に天候が急変し始めたのです。小雨（寒い）→晴れ（暖かい）→土砂降り（寒い）→曇り（冷え込み）これをわずか3時間あまりで繰り返したのです。まさに1日の間に四季があるというのを体感することになったのです。

さてこのまったく雰囲気の違う2コースの結果はどうだったのか？ というと、ほとんど変わらないスコアでだったのです。結局、ゴルフのスコアはコースではなく実力ということが実証された形となりました。

さていよいよ3日目に向かえオールドコースのプレー日となりました。朝起きてゴルフ場へ行くとまずまずの天候、幸いにも風もあまり強くなさそうです（天候は急変するからあてにはならないが）。このオールドコースをラウンドするためだけにスコットランドに来たといっても過言ではないので、スタート時間が近づくにつれて緊



ポットバンカー

張ってきます。スコットランドでは私はすべて手引きカートのセルフでラウンドしましたが、このオールドコースだけは特別です。行く前からキャディを付けようと決めていました。キャディはケビン君、メガネをかけた物腰の柔らかそうな好青年です。

1番ホールの子グランドで記念撮影後、いよいよラウンドの開始です。

周りには観光客などギャラリーがいっぱいで、クラブを握る手も力が入ります。案の定一発目は緊張もあってか左へひっかけ。18ホール側のフェアウェイから2発目となってしまいました。

キャディはその人のショットを3〜4発見ると実力がわかるようで、3番ホールからは何も言わずクラブを選択して渡してくれる様になります。

そこであるハプニングが起きたのです。12番ホールの子グランド、キャディは私に **ドライバー** を手渡してくれます。私は距離が短いとフェアウェイが狭まそうなので、**ユーテリィティ** (アイアンとウッドの中間のようなクラブ) を自ら選択しました。ティーショットはナイスショットでフェアウェイど真ん中へ。しかしボールのところへ行ってみると、見事にポットバンカーにはまっているではありませんか。ケビンは私に近づいて来て言います。「ほら **ドライバー** だろ！」。

参りました。結局バンカーを出すのに2打要し、ダブルボギーです。

いよいよラウンドも終盤にさしかかり、17番・18番を迎えます。17番はオールドコースの名物ホールです。右の写真を 見てください。右側がホテルになっていてそこを越えていかなければフェアウェイにボールを置くことができません。またその人の飛距離や球筋によって「**OLD COURSE HOTEL**」の狙う文字が変わります。またグリーン前にはかの有名な**トミーズバンカー** (\*) が待ち受けています。

\*1978年の全英オープンで中島常幸は3日目に16番でバーディーを奪い首位に肉薄した。しかし直後の17番 (パー4) で、フェアウェイからの第2打をグリーンに乗せたあとのファーストパットが「**ロードバンカー**」と呼ばれる危険な深いガードバンカーにつかまる。脱出に4打を要し「9」、優勝戦線から大きく後退してしまった。

名残惜しい気持ちの中で18番ティーに立ちます。目の前にはオールドコースでプレイした全ての人が記念撮影をするスィルカン・ブリッジが見えます。1番では威圧感さえ感じたR&Aの建物が優しく見守ってくれているように感じます。そしてグリーンでは地元の人たちに見守られながらフィニッシュを迎えます。「心の中で本当にここに来れたことに感謝！」とつぶやきながら、私のオールドコースのラウンドに幕を下ろしたのです。

さて残す日2日となりました。翌日、翌々日はセントアンドリュースニューコースと2014年ライダーカップ (米国vs欧州) の開催コースグレンイーグルスは決定しています。自分達はもう1プレーを望んでいて、できれば **カーヌスティ** (\*) で思っていたのでした。で、早速カーヌスティで電話。残念ながら予約が一杯ということでカーヌスティではプレーが出来ないこととなってしまいました。

\*カーヌスティ1850年にオープンし、これまで全英オープンを7回開催していて、スコットランド特有のリンクスコース。非常に戦略性が高く、さらに他のリンクスコースにないバリー・バーンと呼ばれる小川が流れており、このバリー・バーンがコースの難易度をさらに高めている。1968年にこのコースで優勝したゲリー・プレーヤーは「世界で最も難しいコース」と語るなど、全英オープンの開催コースの中でも一番難しく、世界のゴルフコースの中でも5本の指に入る難しさである。

ということで、ホテルの人にこの辺でカーヌスティ以外でプレーすべきゴルフがどこか聞いたところ、スッコックレイグGCがお奨めということ。全英オープンの最終予選会場にもなっているコースで、非常に面白いとのこと。早速そこを予約。金額は1ラウンド30ポンドっていうから5000円ほどです。

これから残り2日間でプレーする3コースが決まりました。



キングスバーンフェアウェイ

ニューコースはオールドコースの隣で、オールドコースと非常に良く似ています。3番・15番はオールドコースと同様ダブルグリーンダブルフェアウェイで難易度は非常に高く、実はここで全英やメジャートーナメントをという声も多いそうです。

グレンイーグルスは2005年G8サミットが行われた高級リゾートです。ライダーカップが開催されるということで素晴らしいゴルフ場と期待しましたが、その通りで、ちょうど私達がプレーした翌日から欧州ツアーの**ジョーニーウォーカークラシック**が開催されるようで準備のテントなどが設営されていました。

カーヌスティの代わりに予約をした、スッコックレイグについて少し書き留めておかなければなりません。セントアンドリュースから20分ほど北上した所と聞いていたので、海岸線のリンクスを想像していたのですが、全然違う、まるでアメリカの片田舎のゴルフ場といった感じなのです。またゴルフ場の立地が住宅街に入っていったひっそりとたたずんでおり、クラブハウスも木造のとても質素な作りになっています。入り口の看板には世界で13番目に古いゴルフクラブと書いてあります。



オールドコース・スターター小屋



17番子グランドから



バルコミーリンクス

クラブハウスでボリューム満点の昼食を採り、いよいよラウンドです。まず最初にゴルフを見回すと「ん？、この景観、木でコースがセパレートされているし、なんか普通っぽいゴルフ場だな」というのが第一印象だったのですが、ラウンドしてみたら何と難しい！！木がたくさんある上にリンクスのラフもある。つまり通常のゴルフ場にリンクスのラフをミックスさせたような作りになっているのです。「これは相当苦しむだろうな」という予想通りの結果となってしまいました。深いラフのおかげでフェアウェイが狭く距離も長い。ティーグラウンドに立つとコースの顔に威圧される感覚に陥ります。

今回素晴らしい7コースをラウンドしましたが、個人的にまたリベンジをするのであれば、このスコットクレイグを選びます。



ジュビリーコース



スコットクレイグ歴代メダリスト

わずか5日の滞在で7コースを堪能したスコットランドゴルフトリップでしたが、とても素晴らしい体験でした。手引きカートで歩き、スループレーが基本のプレースタイル。改めて日本のゴルフのプレースタイルはどうなんだろう？と思いましたし、風に弱い自分自身のショットも反省させられました。そしてスコットランドに来たことへの感謝とゴルフをやっていて良かったという気持ちも改め再認識しました。ゴルフをしていなかったら、絶対にスコットランドには来ていないでしょう。

まだまだ、世界には未体験の世界があります。



グレンイーグルス



グレンイーグルス (ジュニーウォーカークラシック準備中)

■コラム

■アークルの人達ブログ・絶好調連載中です!

ただいまブログは8名が更新中です。

- ・小田原営業所所長日記
- ・チーフの日記
- ・販促課小田原日記
- ・販促課マネージャーの日記
- ・海老名の所長ブログ
- ・開発道
- ・海老名営業所ルート営業日記
- ・新米営業マンの悪戦苦闘日記



ボーリング大会優勝者 K君！！

今月は以上です。又、来月号も宜しくお願いします。

#### ■2013年度のマンスリーNEWS

<a href="#">→</a>	2013.08	<a href="#">アークル</a>	<a href="#">マンスリーNEWS</a>
<a href="#">→</a>	2013.07	<a href="#">アークル</a>	<a href="#">マンスリーNEWS</a>
<a href="#">→</a>	2013.06	<a href="#">アークル</a>	<a href="#">マンスリーNEWS</a>
<a href="#">→</a>	2013.05	<a href="#">アークル</a>	<a href="#">マンスリーNEWS</a>
<a href="#">→</a>	2013.04	<a href="#">アークル</a>	<a href="#">マンスリーNEWS</a>
<a href="#">→</a>	2013.03	<a href="#">アークル</a>	<a href="#">マンスリーNEWS</a>
<a href="#">→</a>	2013.02	<a href="#">アークル</a>	<a href="#">マンスリーNEWS</a>
<a href="#">→</a>	2013.01	<a href="#">アークル</a>	<a href="#">マンスリーNEWS</a>

#### ■マンスリーNEWSアーカイブ

<a href="#">→</a>	最新	<a href="#">マンスリーNEWSトップページ</a>
<a href="#">→</a>	2012年度	<a href="#">2012年のマンスリーNEWSアーカイブ</a>
<a href="#">→</a>	2011年度	<a href="#">2011年のマンスリーNEWSアーカイブ</a>
<a href="#">→</a>	2010年度	<a href="#">2010年のマンスリーNEWSアーカイブ</a>
<a href="#">→</a>	2009年度	<a href="#">2009年のマンスリーNEWSアーカイブ</a>
<a href="#">→</a>	2008年度	<a href="#">2008年のマンスリーNEWSアーカイブ</a>
<a href="#">→</a>	2007年度	<a href="#">2007年のマンスリーNEWSアーカイブ</a>
<a href="#">→</a>	2006年度	<a href="#">2006年のマンスリーNEWSアーカイブ</a>
<a href="#">→</a>	2005年度	<a href="#">2005年のマンスリーNEWSアーカイブ</a>
<a href="#">→</a>	2004年度	<a href="#">2004年のマンスリーNEWSアーカイブ</a>
	番外編	<a href="#">マンスリーレポート番外編</a>

